

# 東京大学総合図書館別館

GENERAL LIBRARY ANNEX, THE UNIVERSITY OF TOKYO

No. 10-057-2019作成

新築  
学校

発注者	国立大学法人 東京大学	カテゴリー				
設計監修	東京大学キャンパス計画室（野城智也・川添善行） ・同施設部	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術／FB	
設計・監理	清水建設株式会社一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	清水建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

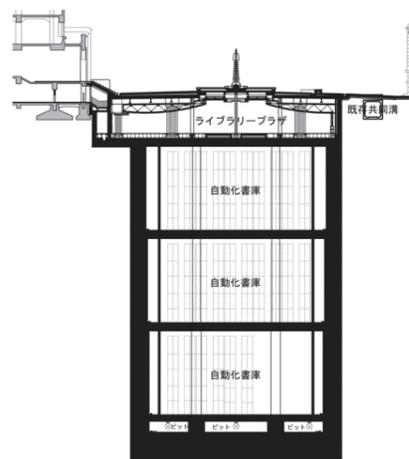
## 対話を促すアクティブラーニング空間と大深度書庫



地下のライブラリープラザ

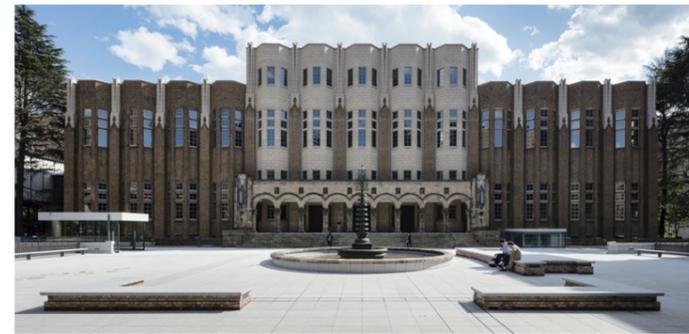
歴史的なキャンパス空間を保存する地下大深度図書館

本郷キャンパスの敷地不足と新しい学習形態に対する空間の確保という2つの課題を同時に解決するため、総合図書館本館前の広場の地下に300万冊収蔵の自動化書庫と学生の創造的学習の場であるライブラリープラザを含む別館を設けた。安全に地下構築物を実現するため、土木施工技術であるニューマチックケーソン工法を採用した。広場の中心にある噴水を地下空間に自然光を導くトップライトと組み合わせ整備した。ライブラリープラザの国産スギ無垢材の天蓋は、調湿の他に室内騒音を適度に拡散させることで音の集中を防ぐ効果と、スギの香りによるリフレッシュ効果を持たせた。空調は温度変化が小さい地下の特性を生かし、輻射パネルと全面床吹き出し空調を組合せ、気流を感じない快適で穏やかな室内環境としている。また最大200人の利用を考慮し、円形壁に孔の大きさの異なる二重の有孔吸音板等、高い吸音性を持つ仕上によりそれぞれの対話に干渉しない音環境を実現した。さらに、建設地で発見された、江戸期加賀藩の用水路や関東大震災で焼失した旧図書館のレンガ基礎の遺構をベンチや床パターンとして広場に再生することで、歴史の重層性を視覚化し記憶する場とした。



断面図

建物データ	省エネルギー性能		
所在地	東京都文京区	BEI	0.68
竣工年	2017年	BPI	0.66
敷地面積	304,880.06㎡		
延床面積	5,752.00㎡		
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造		
階数	地下4階、地上1階		



歴史的景観を保存する地下図書館



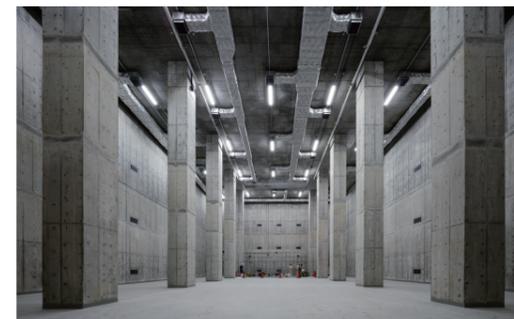
遺構を展示したサンクンガーデン



ミーティング・学習をサポートする設備



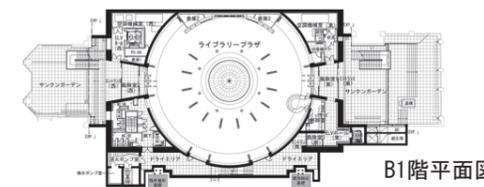
噴水越しの光がライブラリープラザに注ぎ込む



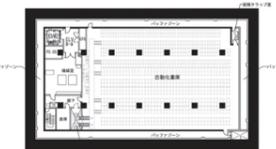
自動化書庫フロア（自動化書庫設置前） 自動化書庫（300万冊）



最大ボリュームを確保する土木構法の採用



B1階平面図



B2階平面図

受賞歴 第45回東京建築賞 一般二類部門 最優秀賞 / 日本建築学会 作品選集（2019年） / 照明学会照明デザイン賞 入賞

設計担当者

設計監修：東京大学キャンパス計画室（野城智也・川添善行）・同施設部

設計：清水建設\*

建築：稲場万領夫\*、川村典子\* / 構造：竹田拓司\*、遠藤和雄（ケーソン）\* / 設備：笠原真紀子\*、野村圭吾\* / 電気：中澤公彦\* /

インテリア設計協力：フィールドフォー・デザインオフィス / 照明設計協力：ライティングM

工事監理：清水建設 藤田聡、圓山雄太郎、浅井政宏、大塚照夫

写真撮影：小川重雄写真事務所、株式会社エスエス

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3. 2. 歴史的な継承（現地に出土した遺構を利用した広場）
- Q3. 2. 新たなシンボルの形成（噴水を復元し、整備されたキャンパスのマスタープランの軸線）
- Q2. 2. 地下水侵入防止（躯体外周全体を覆う止水鋼板、地下外壁との間に設けたパuffersゾーン）
- LR1. 1. PAL性能向上（すべての室を外乱が少ない地下に埋設）
- LR1. 2. 自然採光（噴水越しのトップライトでの屋光利用）
- LR1. 3. 輻射冷房（除湿型放射パネルと空調機による全面吹き出し方式の採用）